

引原ダム再生事業 事業内容

事業内容

- ① 堤体嵩上げ(2m)
 - ② 放流設備の新設
 - ③ 放流設備の改造※
※嵩上げに伴う規模拡大及び更新
 - ④ 国道付替(300m)、管理用道路付替 (100m)
 - ⑤ 管理所移設
- 【負担割合】国 55%、県 45%

- ・堤体嵩上げ、予備放流の拡大による洪水調節容量の拡大
- ・放流設備新設による放流能力の増大
- ・嵩上げに伴う規模拡大及び更新による放流設備の改造

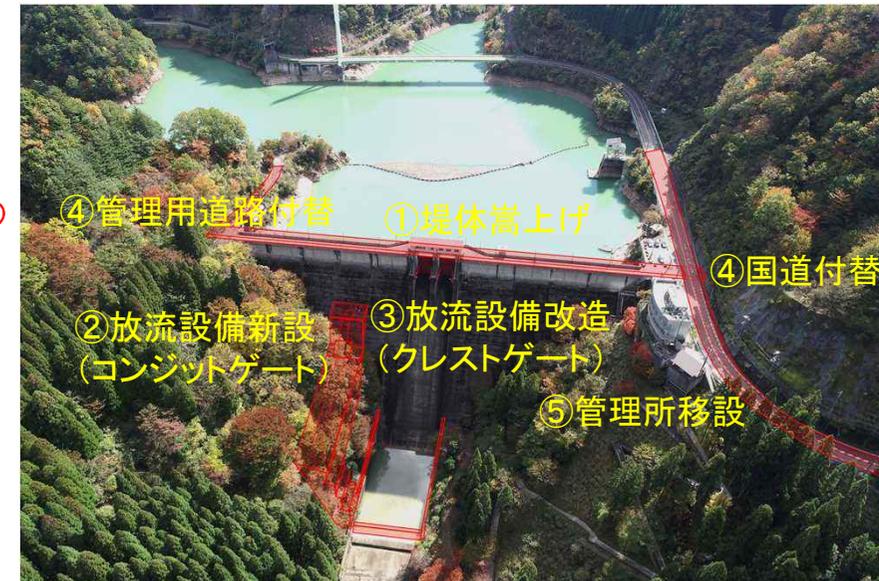
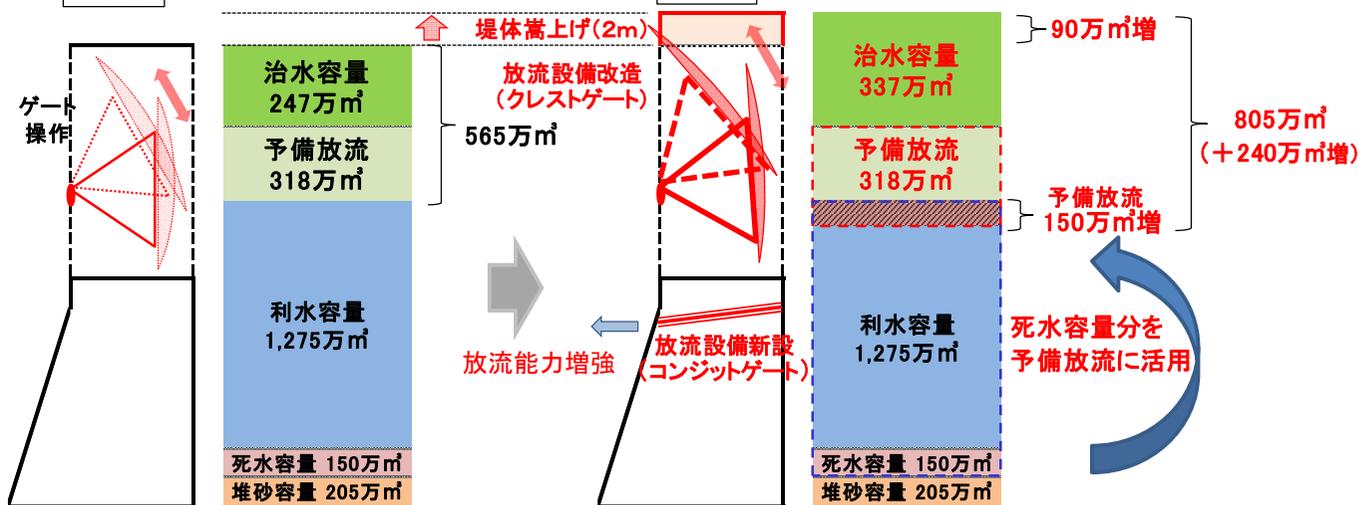
工程表

種別	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
調査・設計	調査	予備設計	実施設計							
用地補償		模型実験								
① 堤体嵩上げ					堤体嵩上げ			天端橋梁架替		
② 放流設備新設 (コンジットゲート)				製作→仮締切→削孔→据付				洪水調節が実施可能		
③ 放流設備改造 (クレストゲート)						1門	製作	据付		
④ 国道付替、 管理用道路付替								1門	製作	据付
⑤ 管理所移設										
試験湛水										

3年早期に
効果が発現

現在

計画



●河川整備基本方針規模(1/100)*と同規模の洪水が発生した場合、引原ダム再生事業の完成により

※河道条件:ダム再生後の河道(国の河川整備計画が完了した後の河道)

①揖保川流域における浸水被害を軽減

■浸水解消世帯数：496世帯

<代表地区>

宍粟市山崎町付近 136世帯

姫路市付近 225世帯

■床上浸水解消世帯：455世帯

<代表地区>

宍粟市山崎町付近 160世帯

姫路市付近 198世帯

■浸水面積：約100haの解消

<代表地区>

宍粟市山崎町付近 約30ha

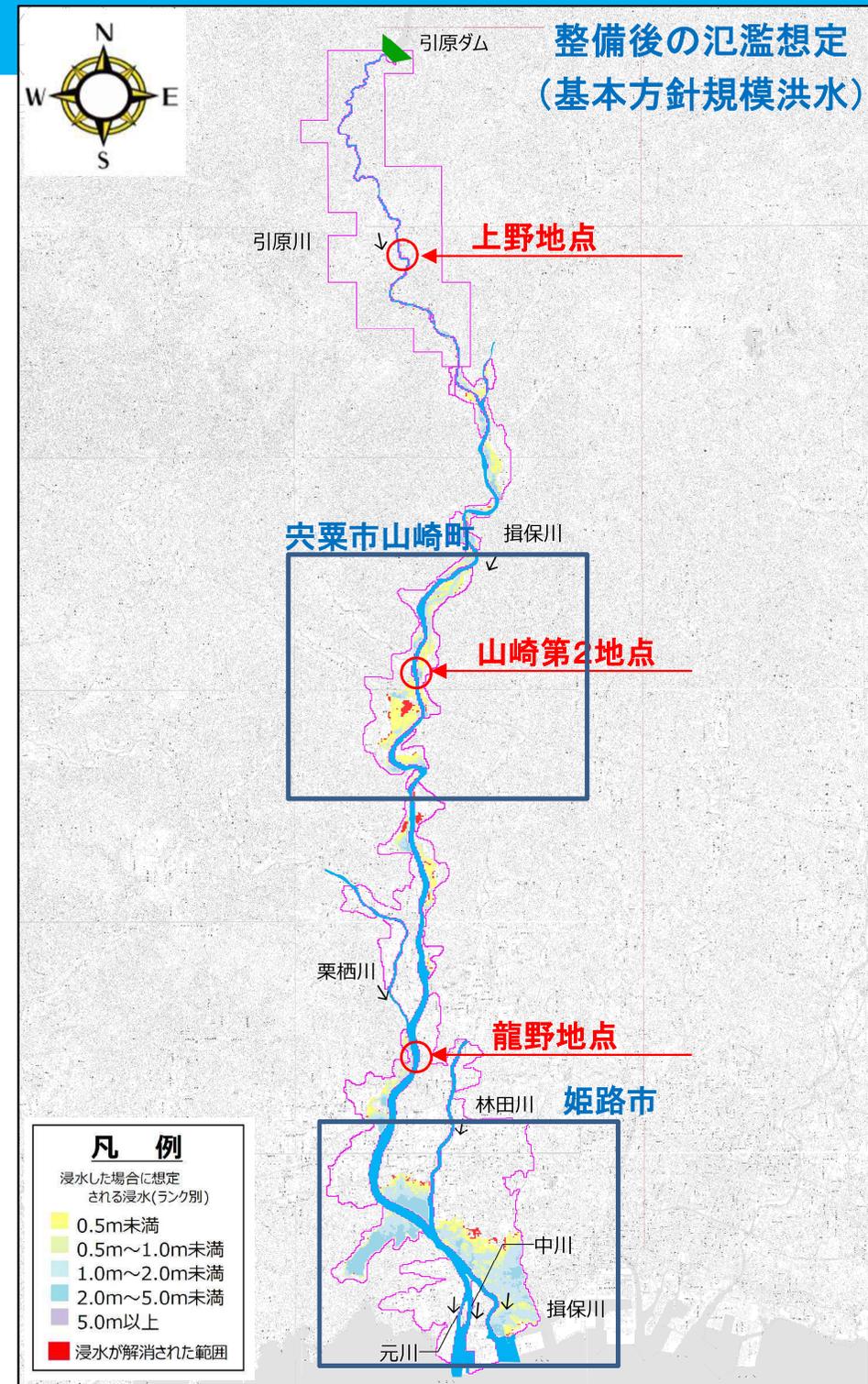
姫路市付近 約30ha

②下流河川の流量軽減：約100m³/s

■上野地点：約30cm水位低下

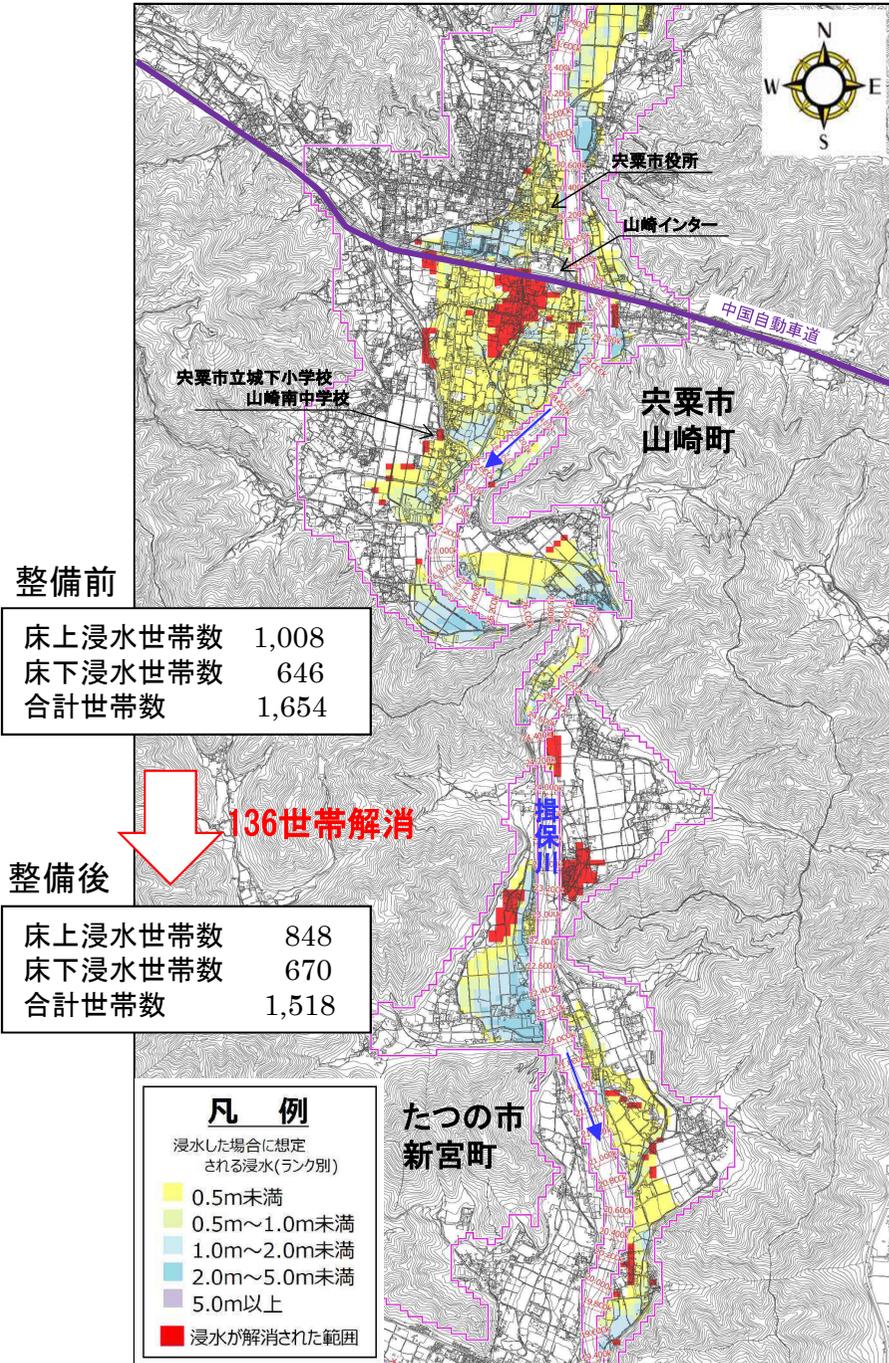
■山崎第2地点：約10cm水位低下

■龍野地点：約10cm水位低下

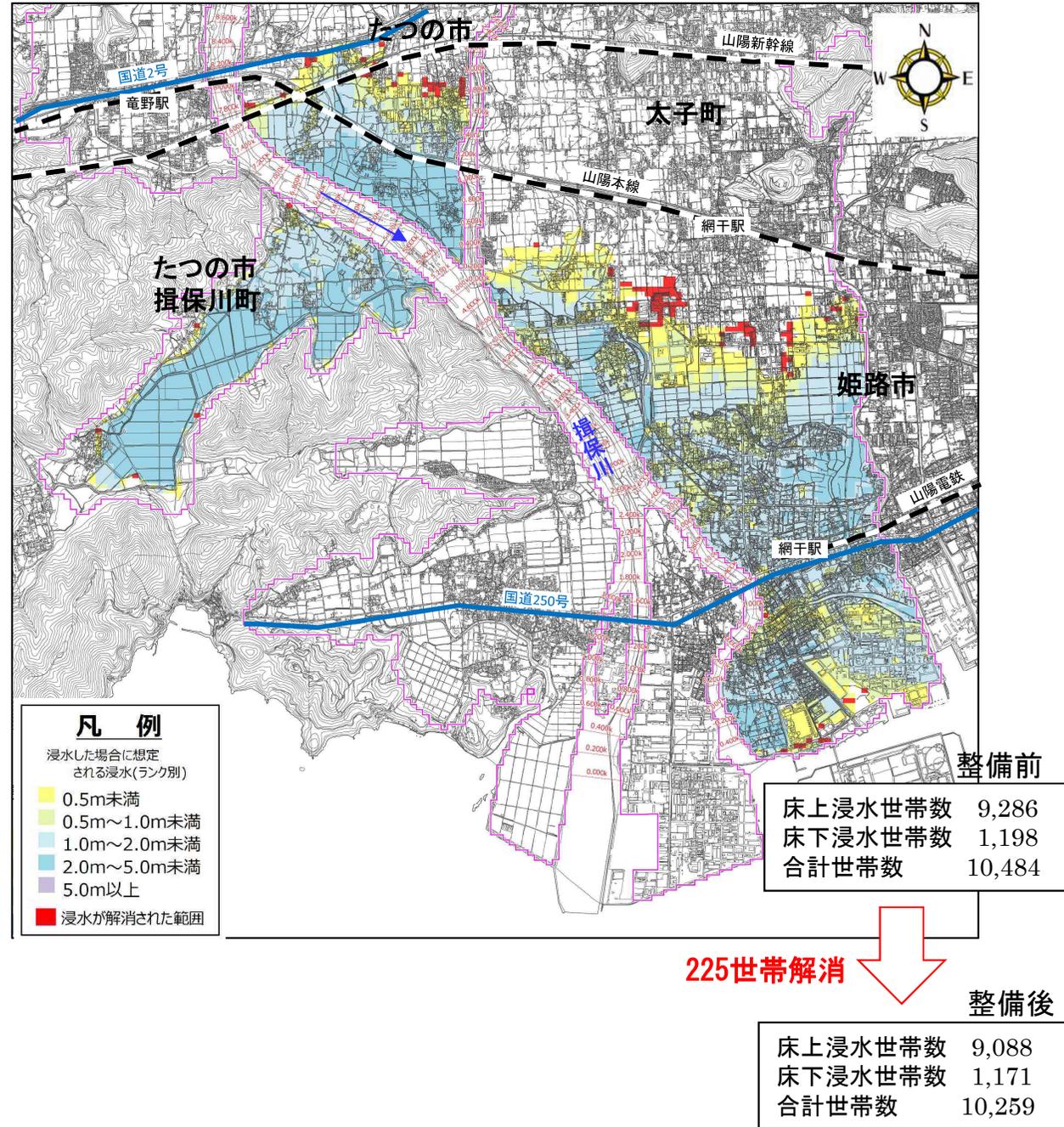


引原ダム再生事業 事業効果

宍粟市山崎町付近拡大図



姫路市付近拡大図



(1) 費用対効果

① 便益(B)の項目

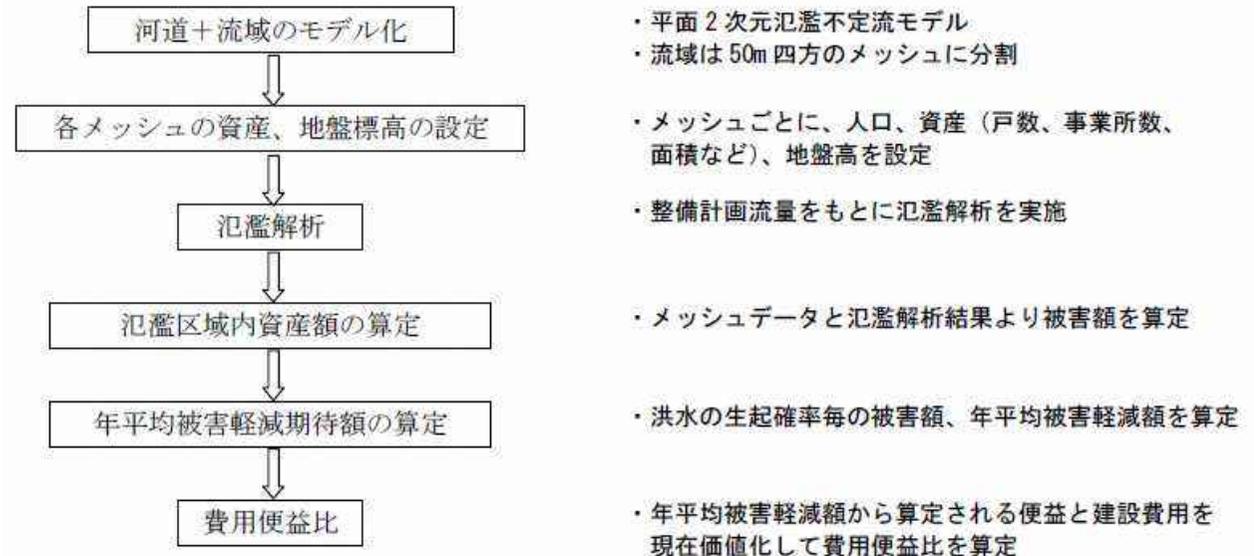
評価の視点	効果項目(費用対効果の便益内容)
治水安全度の向上	浸水被害の軽減 <ul style="list-style-type: none"> ・一般資産被害(家屋、家庭用品、事業所償却資産、農業家償却資産等) ・農産物被害、公共土木施設等被害、営業停止被害、応急対策費用

便益(B)の項目

1) 便益 = 治水事業を実施することによる被害軽減期待額を現在価値化被害額
 = 一般資産被害(家屋、家庭用品、事業所償却資産、農漁家償却資産等)
 + 農産物被害 + 公共土木施設等被害 + 営業停止被害 + 応急対策費用

2) 費用 = 「建設費 + 維持管理費」を現在価値化

② 費用便益比(B/C)算出根拠



B(便益)		C(費用)			B/C
便益額	代表的な効果	総費用	事業費	維持管理費	
64,094	確率規模1/100の降雨に対して ○浸水面積100ha軽減 ○浸水戸数500戸軽減	14,958	14,807	151	4.3

感度分析 B/C = 3.9~4.7(事業費±10%)、4.2~4.4(工期±10%)、3.2~4.7(資産±10%)

(2) 費用対効果に含まれない効果

評価の視点	効果項目	該当する事業内容等	
社会経済活動等の安定	人的被害の軽減	○	<ul style="list-style-type: none"> ・浸水区域内人口約1,300人、災害時要支援者約500人を解消 ・最大孤立者約1,200人(避難率0%)、約700人(避難率40%)、約250人(避難率80%)を解消
	道路、鉄道等の交通途絶による波及被害の軽減	○	<ul style="list-style-type: none"> ・中国自動車山崎IC利用者の交通途絶を解消 ・国道29号山崎町中心等の交通途絶を解消(交通量14,710台/日)
	医療・社会福祉施設、防災拠点施設、文化施設等の被害の軽減	○	<ul style="list-style-type: none"> ・宍粟市立城下小学校、山崎南中学校等の浸水を解消
	ライフラインの停止による波及被害の軽減	○	<ul style="list-style-type: none"> ・電力の使用不能者約1,600人の解消 ・固定電話・通信の使用不能者約1,750人の解消
	水害廃棄物の発生の軽減	○	<ul style="list-style-type: none"> ・水害廃棄物約1,700t、処理費用約4,700万円軽減
魅力ある河川空間の創造	多様な生物の生活環境の保全・再生・創出	—	—
	親水空間の整備・景観への配慮	—	—

(3) 地域からの要望状況等

要望状況等	<p>過去に引原川及び揖保川において浸水被害が発生しており、また、平成30年7月には2回目の異常洪水時防災操作が実施されたことから、引原川及び揖保川の洪水被害の軽減について、流域関係自治体から引原ダム再生の早期事業化の要望が強い。</p>
-------	---